

# COLUMN

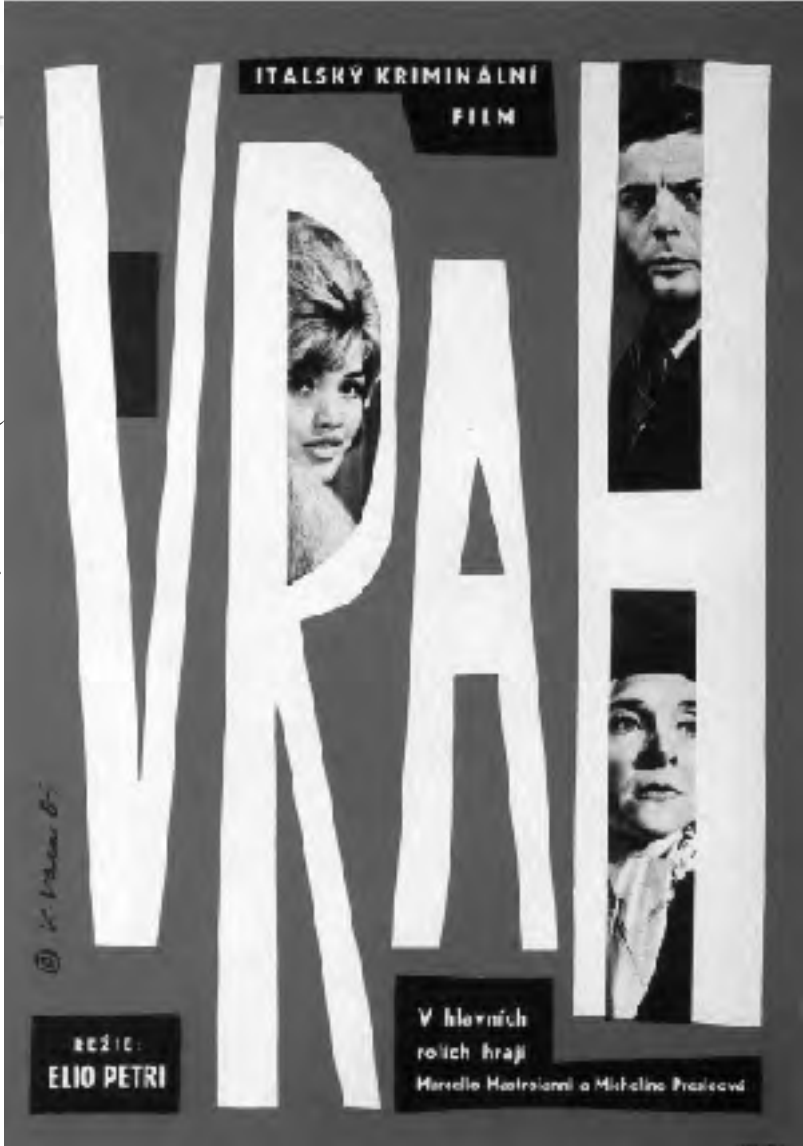
鎌倉の猫事情 第七十二話



グーニー君は、まさに満身創痍でした。最初に口の中に傷ができて、それから一度手術をしてからもその傷がふさがらず、原因は猫エイズという診断でした。その影響があるのでしょうか、肝臓も弱り、口の中の傷が定期的に激痛の発作を起こしていました。そのたびに獣医さんで注射を打ってもらい、その頻度は増していきました。そしていずれは、インターフェロンのような劇薬を打つことになるだろうと予想されていました。

毎日が綱渡りのような日々をもう2年近くも送っていたその時に、ならず者の茶トラ猫の襲撃を受け、足にひどい怪我を負ったのです。先生は、足の腫れが柔らかくなったら切開をして膿みを出そうと仰いましたが、グーニーの病状はどの方向から見ても免疫不全という状態です。切開をして今度は口の中ばかりでなく、足の傷も塞がらないという事態にはならないのでしょうか。不安で胸が一杯になりました。それに、グーニーの様子は足の怪我をして以来あきらかに変わりました。どんなに具合が悪いときでも、いえ、具合の悪い時ほど持ち前の負けん気で、私にも、先生にも敵意をむき出しにしていたのに、今は抵抗する気配もなくなっています。こんなに無気力なグーニーを見たことがありません。私は腫れ物にさわるように、そっと手負いのグーニーを家に連れて帰りました。家の中でも、ぐったりとしてろのろと丸くなっているばかりです。そして2、3日が経つと丸くなることすらおっくうになったようです。夜、私が気が付くといつもは入らない畳敷きの部屋の布団の上に四肢を投げ出して横たわっていました。そして恐ろしいことに目を閉じないのです。横たわったまま目はうつろに宙を見えています。私はその姿に涙がこぼれました。そしてその晩はそこに添い寝をしてやることにしました。まだ夏の名残りの残る頃だったと思います。掛け布団もなしで、私は横たわるグーニーの横に眠りました。その晩私は、覚悟しなくてはならないのかもしれないと思いました。朝、目が覚めると驚いたことに、相変わらず横たわるグーニーの両側に愛妻スィービーと末娘ジュリーが、川の字を描くように寝ていました。今まで一度だって、こんな風に並んで寝たことなどありません。彼女達なりに、グーニーを守ってあげたかったのでしょう。彼女たちも私と同じ気持ちだったのです。

————— to be continued



# Vision

透明な夢

こんな夢を見た……

昼日中、僕は季節はずれの暑さのせいでどこかで倒れたらしい。運ばれたベッドで眠り込んでいる。夢の中で、眠っている僕は、眠っている僕を眺めていた。天国のように美しい光と、花の香りに包まれている。ふわふわとして宙を泳ぐみたいに体が軽くて、まるで雲の上を歩いているみたい。なんとも言えないいい気持ちだ。

夢とうつつのあいだをさまよったあげくに、僕が迷い込んでしまったのは誰かの家だった。部屋の中央に祭壇が据えられている。葬式が行われているらしい。部屋の両側には真中の通路を開けて30人ばかりの人々が俯きうなだれている。皆顔をあげないから、僕からは表情が読み取れない。

……ここは、なにか変だ……ああ、そうか、よく見ると、なにかもが透けて見えている。花に覆われた祭壇。花に覆われた棺。そしてそのなかに横たわる遺体。なにかもが、透けて見える。透明な花。透明な祭壇。透明な棺……透明な……

なにかもが透き通って……なんて不思議で、美しい……それに、ここにいる人達も透き通っている。……この人達からは僕のことが見えてないようだ。待てよ。僕のことが誰からも見えていないって……ということは……本当に透明なのはこの僕のほうなのかもしれないな。

そう言えば、こここのところ鏡に映った自分の姿がよく見えないなんてことがあったけ。近頃、体の調子が悪くて目がかすむせいだとばかり思っていたけれど……

この前街で妹と並んでショーウィンドウの前に立ったときも、映っていたのは妹だけだった。あの時は特に気にもかけなかったけれど……ということは、本当は僕はその時そこに居なかったのかな？ 僕はいったい今までどこにいたのだろうか？ さっきは確かに自分の部屋のベッドで眠っていたはずだ。なのに……そうか、これは夢なのか。そうに違いない。誰からも姿が見えないなんて、夢の中に違いない。きつと、そうだ。僕だけが鏡にも、ガラスにも映らないなんてことが、あるのか。そうだ、あの花に埋もれた祭壇の写真の額にガラスが入っている。あそこに映してみよう。きつと僕の姿が映るに違いない。……きつと、映るに違いない……





## 骨董・古陶磁 古民芸



# CURIO

cu·ri·o  
— n. (pl. ~s) 骨とう品  
cu·ri·os·i·ty  
— n. 好奇心; 珍奇なもの  
curiosity shop 骨とう店

## 👉 ミルクホールの珍品達

### 道教の壁画

壁画ですか?! 始めて見た時は驚いて聞き返しました。どこから見ても壁画です。大きさは、縦25cm、横8.5cm、厚さ4.5cmの煉瓦といったところです。女性像です。女官なのでしょう、髪を頭の上で結い、薄緑色の着衣です。中国の道教の寺院から出たものだと思います。道教は唐の国教でした。この壁画はその頃のものだと思います。唐は、中国の長い歴史の中でも、平等で、外に眼が開かれた自由な気風のあった時代。千年の間この壁画の女性は何をみつめていたのでしょうか。

¥60000

### 発掘の陶片色々

古い窯跡からは興味深いものが、数多く発掘されます。窯は製作の場でもあり、焼き損じのものの捨て場でもあります。窯の中では、焼成の過程などで右の図のように色々なキズができます。何百年も埋められていたものの数々です。

キズのいろいろ



### 猿投の陶片 壺

奈良時代から平安時代初頭の須恵器の壺。大きく欠けています。愛好家が多いのですが、めっきり数が減っています。

### 唐津の陶片 壺

江戸の初め頃のもの。壺の頭がぐにやりと曲がってちぎれたようです。形がいいです。

¥12000

¥18000

## Milk Hall News

## 一花屋 ichigeya

**OPEN!** ミルクホール友人のお店がオープンです。

てぬぐいカフェ 一花屋 (いちげや) は、昭和初期の家を改造したとても居心地のよいお店です。オーナーはささめやゆき氏の愛娘夫婦。おっとりしたい方にお勧め。一押しはてぬぐいと、美味しいコーヒーです。江ノ電長谷駅より徒歩5分。目印は御霊神社。

☎ 0467-24-9232

<http://ichigeya.petit.cc>

# HISTORY

場所の記憶 No.19

## KAMAKURA

ミルクホール その9 ルーツ

昭和の初め、青島はドイツのモデル植民地として街並みや街路樹、上下水道などが整えられた近代的な町でした。今なお残る西洋風の町並みや青島ビールなど、ドイツが与えた影響はこの町に受け継がれています。再び青島を占領下に置いた日本は中国に対し、対中医療事業を推し進めており、その活動の中心的役割を担っていたのが、「同仁会」でした。「青島病院」は、ドイツが莫大な費用を投じて建設した膠州湾病院でした。それを元日本陸軍より同仁会へ移管したものです。伊豆の韮山から中国へ赴き、青島病院に看護婦として勤めた若い女性は、終戦後帰国し、ミルクホールのマスターの母となる人です。彼女は中国で8年間看護婦として働きました。大正生まれの苦労人で一生涯自分の楽しみより家族のために働き続けた人ですが、中国時代の話をする時だけは、楽しそうに輝いて見えました。暗い戦争時代でも、彼女にとってはかけがえのない青春時代だったのでしょう。ロシア革命から落ち延びてきた白系露人達の話、病院を訪れる中国人達の話、様々な話の端々からもこの中国での生活がどんなものだったのか、正直言って想像がつかえません。色々な事があったでしょう。敗戦の後は大変な思いをして帰国を果たしたことでしょう。昔はなんとなく聞いていたこの地と私達との関わり、不思議な思いを馳せるのです。

次号へ続く

# LIVE

HALF MOONの音楽は

愛と平和を歌います。

ハーフムーンのライブで、  
MILK HALLのBAR TIMEを  
お楽しみください

by HALF MOON

琢磨 仁 (Jin Takuma)

琢磨 啓子 (Keiko Takuma)

10/20 Sat. pm 7:30

# Information

## ミルクホールタイムス定期購読募集

ミルクホールタイムスは、毎月25日に発行しております。定期購読お申し込みの方には、毎月25日郵送いたします。詳しくはミルクホールまで 年間購読料 **¥1500**

## ミルクホールタイムス総集編

「鎌倉ミルクホールタイムス」

ミルクホールにて販売中

No.001 ~ No.100

一部 **¥1800**

ミルクホールタイムス創刊号から100号まで全てを編集した、ミルクホールタイムス総集編を発行致しました。「鎌倉の猫事情」第一話から、また「ガラクタ通信」など、ミルクホール30年のあれこれが楽しめる本になっています。



ミルクホール

骨董・ガラクタ市

# 蚤の市

日本の木の香りを大切にしたい  
 ミルクホールの蚤の市  
 明治・大正時代に日本で作られた和洋家具  
 温かい光を作るランプシェードやガラス  
 明治の銅版・大正の色絵、伊万里に古伊万里  
 懐かしいもの、掘り出し物で一杯です

伊万里・古陶磁  
 和洋家具  
 古民芸  
 アンティーク

伊万里・古伊万里  
 ガラス器・骨董  
 アンティーク  
 全品20%引き  
 古布  
 古着・着物  
 全品30%引き

10/12 <sup>pm6:00</sup> Fri...14 Sun.

初日10月12日金曜日 夜6時オープン ミルクホールにて  
 13日(土)・14日(日)は 朝10時より 夕方7時まで

## 新入荷情報

### ♠ 和洋家具

- ★★明治・大正・昭和初期の和洋家具
- 衣裳箆笥・小箆笥・ケース新入荷
- ★★昭和初期本立て・丸椅子色々入荷
- ★★★★大正時代両面鏡額縁付き ¥35000
- ★★★★明治時代衣裳箆笥 抽斗2段 ¥34000より
- ★★大正衣裳箆笥各種 ¥32000より
- ★★明治時代帳場箆笥入荷 ¥73000
- ★★明治・大正時代文机各種入荷
- ★★昭和初期デスク色々
- ★昭和初期鏡台 ★★大正飾り棚
- ★★昭和初期販売店用デスク
- ★★大正ガラスケース

### ♣ 古民芸・骨董

- ★★★★明治・大正漆器入荷
- ★★鉄瓶・鉄五徳・蔵の金具
- ★★★★道教の壁画 女人像
- ★★明治染付タイル 3枚
- ★★英国18c.ストーンウェア
- ★★李朝盆・根来碗
- ★★灯籠台天燈器
- ★青銅器
- ★アフガン石仏

### ◆ アンティーク

- ★★大正のレースガラス各種
- ★★昭和初期色ガラスショットグラス
- ★★昭和スタンドライト各種
- ★アンティークシェード各種
- ★レプリカシェード ¥5800より

### ♣ 古陶磁

- 伊万里・古伊万里・明治べろ藍・大正色絵等々 買いやすい価格で新入荷!
- ★★伊万里そば猪口キズ物多数 金継ぎ・ニュー直しなど ¥1200より
  - ★★★★江戸中期古唐津水盤
  - ★★大正色絵なます皿・小皿・徳利各種新入荷
  - ★★明治銅版小皿新入荷 文明開化絵皿など
  - ★★古伊万里豆皿・なます ★★平戸猪口
  - ★★明治瀬戸石皿・鉢 ★★明治銅版火鉢
  - ★★高麗青磁色々 ★★明治古染 杯
  - ★初期伊万里陶片 ★縄文土器欠片

### ✂ 古布

絞り・小紋・銘仙・大島など、古い着物をほどこいて作っています。値段の目安は1メートルで1000円ほどです。

### ★ 着物・アンティーク古着

- 大正・昭和初期に大流行した斬新なデザインの銘仙やお召しの着物など入荷しています
- 久留米緋 ¥7800より 銘仙着物 ¥6500より
  - お召し ¥6800より 小紋 ¥3800より



## 和の小もの

ミルクホールオリジナル 和の小もの  
 大正・昭和初期時代の絹の着物の布地を  
 素材に使った和の小もの色々です

### ✂ 帯・つくり帯

### ★★ミルクホールオリジナル新作帯入荷

- ★★大正・昭和初期名古屋帯 ★半幅各種
- 名古屋帯お仕立て ¥3000より
- 二重たいこお仕立て ¥4000より

### ✂ かんざし

- ★かんざし各種
- 木のかんざし ¥1800より
- ★ミルクホール製 くるみボタン
- くるみボタン ¥100より
- くるみボタンのコーム ¥1200より

### ✂ 半衿・帯揚げ

- ★★各種半衿 新入荷
- 昔の着物をほどこいて半衿に仕立てました。大正風にアレンジするなら銘仙など、コーディネートが楽しめます。
- 半襟 ¥800より

